



# 見沼小だより

令和4年度 第5号  
令和4年8月26日発行  
TEL 048-663-7342

<https://minuma-e.saitama-city.ed.jp/>

めざす児童像 世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子

## 全国・学力学習状況調査の結果から

校長 佐藤 俊夫

行動制限の無い3年ぶりの夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。報道では連日、多くの感染者が出る中での夏休みでしたが、皆さんはどのようにお過ごしになりましたでしょうか。

この夏休みに、各教室には黒板に投影するプロジェクターが新たに設置されました。これはタブレットの画面を黒板にそのまま投影できるものです。そこにチョークで文字を加えたり、線を引いたりすることが出来ます。正にデジタルとアナログの融合です。様々な活用方法が考えられます。私も少し操作してみました。授業のスタイルが、また大きく変わりそうです。こういった新しい機材が入ると子どもたちはワクワクします。そのワクワクを大切にしたいと考えています。今後の授業参観ではその様子的一端をご覧いただけるかと思えます。



プロジェクターの研修を含め、この夏休みに本校では、様々な研修を行いました。特に「全国学力・学習状況調査」(6年生が4月に実施)の結果を活用し、6年担任だけでなく全職員で分析を行いました。その結果、本校の実態として回答欄を空白にした無回答の割合が高めだということがわかりました。ある意味、諦めがいい、潔い、というところなのかもしれません。長い文章の場合はそれが顕著です。長文から必要な情報を見つける力に課題があると考えられます。また「質問紙調査」では理科を「好き」と回答する割合は高いのですが、国語と算数では低めでした。正答率が高い子にもそういった傾向が見られます。つまり、学習は出来ていても、楽しさは実感できていない……。これは由々しき問題です。学びの楽しさを実感できる授業改革が求められます。それを受けて、9月には教育研究所の指導主事を招致してタブレットで「共同編集」を取り入れ、多様な考え方を共有する授業法の研修を行うことにしました。デジタルを積極的に活用し、アナログの良さを生かし、ワクワクする授業が今後も進められるよう教職員一同、日々研鑽して参ります。2学期も変わらぬご支援の程、宜しくお願いします。

### 「1学期 懇談会」の感想 \*多くの感想、ありがとうございます。

- ・1年生の毎日のタブレットの持帰りに疑問があったのですが…先生の話聞き、考えを改めようと思えました。クラスの雰囲気も伝わってきました。話が聞けてよかったです。(1年) ・子供達が生き生きと積極的に授業に参加していて、先生との仲がとても良いクラスなんだと思いました。子供達に分かりやすく教えていただけているんだと思いました。(2年) ・懇談会では休み時間や授業中の様子を詳しくお聞きすることが良かったです。子供達に真剣に向き合ってくださっているのが感じられ有難いと思いました。(3年) ・先生の話は参加した親の心を掴み笑いありで、とても和やかでした。最後にスタサプの使い方を教えてくださり、今更ながら講義の動画があったことを知りました。授業で理解できなかったところの補習にもなることが分かりました。今日をきっかけに子供への声かけや勉強の見守り方も変われそうな気がしました。ありがとうございました。いじめ問題も学校が真摯に対応していることが分かり安心しました。先生方が対応してくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。(4年) ・今回の懇談会は林間学校のものでした。マスクを付けているせいか、先生のお話が聞き取れる所と聞き取れない所があり周りの保護者の方と聞こえた所の情報交換をしました。先生のお話の時にはマスクを外してお話しして下さると聞こえるのかもと思います。(5年) ・お忙しい中、スライドショーまで作成していただき、ありがとうございます。学校の様子が分かって嬉しいです。写真が少し見られるだけでもラッキーです。毎学期、毎年となると先生方、本当に大変だと思うので、ご無理のないようお願い致します。(6年)